

## 「きれいな学校」

校長 星野 貞邦

校庭の落葉樹も冬に備え葉を散らし、寒さがいっそう身にしみる季節となりました。早いもので、暦の上では「師走」、今年も残り一ヶ月余りとなりましたが、保護者・地域の皆様方には、今年一年間、学校の様々な教育活動にご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。

2学期を振り返ってみると、文化祭・合唱コンクールに始まり、新人体育大会、カナダ国際交流、駅伝大会、生徒会役員選挙、未来くるワーク等の行事が実施され、生徒たちもそれぞれの行事を通して、仲間の大切さや協力して一つのことを成し遂げることのすばらしさ、一生懸命に物事に取組むことの達成感など多くのことを学んでくれたと思います。

さて、話は変わりますが、本校は木々も多く、この時期はたくさんの落ち葉が舞います。毎朝、校務員の田中さんが正門付近の落ち葉を掃除してくれています。田中さんが朝、掃除をしていると、登校して来た生徒が「いつもありがとうございます」と声を掛けてくれたそうです。そのことが、嬉しくて疲れも吹っ飛び、生徒のためにさらに学校をきれいにしようと頑張っているそうです。おかげで、校庭の木々の剪定など本当によくやってくれて学校が少しずつきれいになっています。

「時を守り 場を清め 礼を正す」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは、教育学者の森信三先生が提唱した人間の生活にとって大切な三原則として有名な言葉です。どれも人間の生活にとって大切なことですが、この中で、「場を清める」ということについて森先生は、「場を清める」とは、掃除をすることと述べています。掃除することの意味は五つあります。変化に気づける、心を磨く、謙虚になれる、感動の心を育む、感謝の心が芽生えるとのことです。これは、目の前にごみが落ちていても知らない振りをするのではなく、それをさっと拾える感性を養うことで、自分を磨くことにつながる。一つ足元のごみを拾うと一つだけきれいになる。清掃をして、人のために尽くすという心構えがその人の人生を豊かにしてくれるとのことです。

また、「人が環境をつくり、環境が人をつくる」という言葉もあります。私なりに、この言葉は、自分たちにとってよい環境をつくるのが、自分を成長させるためには大事なことだと解釈しています。自分が生活し、勉強する場をきれいにしようと努めている生徒は、心もきれいで、自分を高めよう、よい環境をつくろうと心がけていることが伺えるからです。そして、このような生徒は、例外なく勉強に集中して、落ち着いた生活態度で学校生活を受けていることが多いと思います。ですから「環境が人をつくる」と言われるのだと思います。このことは、学校だけではなくご家庭でも言えます。居間が整理整頓されていて、世界地図や有名な画家の絵やカレンダーが飾ってあったり、宮沢賢治の絵本などがおいてあったりする家庭で育った子どもは、想像力があったり、読解力が高かったりする子どもが多いようです。

12月は、11日（月）から22日（金）までの2週間、環境美化委員会が中心になり、清掃強化週間「ピカピカ・ウィーク」が実施されます。この機会に、自分の身の回りの整理整頓を含め、清掃について考え、「場を清める」ことを通して、自分自身の心を磨いてほしいと思います。